

自己判断の脱ステロイド後に強い全身症状を経験した成人アトピーの経過 (30 代女性)

症例 ID：001-30-HM3 | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

子どもの頃から汗をかくと湿疹が出たり鼻炎を起こしたりしていましたが、自然に治っていたため特に治療はしていませんでした。15 歳頃から顔にアトピーが出て皮膚科へ通い、その後約 8 年間、毎日ステロイド軟膏を塗り続けました。

ステロイドを塗っても症状が強くなり、薬の効果も落ちていると感じ、自己判断で脱ステロイドを始めました。感染症は起こさなかったものの、リンパ液で全身が大やけどのようになり、体が突っ張って動けず、夜眠れず、食欲もなく体力が落ちました。何度も皮膚が剥け、歩いた後に粉のような皮膚が落ちる状態でした。白内障も経験しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	15 歳頃から顔のアトピーに対してステロイド外用薬を使用していました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	約 8 年間、毎日のように使用していました。
中止時期	自己判断で脱ステロイドを開始しました。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
15 歳頃	来院前	顔にアトピーが出て皮膚科に通い始めました。
15 歳頃～約 8 年間	来院前	毎日ステロイド軟膏を塗り続けました。
自己判断で中止後	リバウンド期	リンパ液で全身が大やけどのようになり、体が突っ張って動けず、夜眠れず、食欲も落ちました。
リバウンド中	ピーク期	皮膚が何度も剥け、歩いた後に粉のような皮膚が落ちました。目のかすみが出て白内障も経験しました。
その後	経過中	自己判断の中止による強い症状を経て、松本医院での治療へつながりました。

4. ピーク時期

ピークは、自己判断でステロイドを中止した後、リンパ液で全身が大やけどのようになり、体が突っ張って動けず、睡眠・食欲にも影響した時期です。

5. 困りごと

- 自己判断で脱ステロイドを行い、強いリバウンドに対する不安が大きくなりました。
- 全身のリンパ液、皮むけ、睡眠困難、食欲低下がありました。

- ・白内障を経験し、目の症状も負担となりました。

6. 経過のまとめ

15 歳頃から約 8 年間ステロイド外用薬を使用し、その後自己判断で脱ステロイドを行ったところ、全身の浸出、皮むけ、睡眠困難、食欲低下を伴う強い症状を経験しました。この経験を経て、ステロイドを使わない治療を考えるようになり、松本医院での治療につながりました。症状には波がありましたが、通院経過の中で、皮膚症状や生活上の支障が軽減していく変化がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。